



口留番所跡(くちどめばんしよあと)……………江戸時代の検問所  
 檜枝岐村は会津と上州を結ぶ要所の為口留番所が置かれた。  
 番所の起源は天正年間(一五七〇年代)に、星越後(ほしえちご)  
 ・星備中(ほしびちゅう)が関守となっており本場に番所機構が  
 整備されたのは寛永年間(一六〇〇年代)からで、街道には高さ  
 約三米横約四米の木戸門を造りその左右には六十本の柵を立て  
 て通行出来ないようにし、木戸門のそばに番所が置かれていた。  
 番所の目的は、八品留物(はっぴんとめもの)といって、女・菓  
 たか・蠟・駒・漆・熊皮・紙・鉛などの領外への流出を防ぐ為  
 でその他の留物はその都度役所から通達された。幕末には留物  
 の取締りも治安を守る役目になり明治維新以後は番所の建物  
 も取りこわされた。

